

## 国際競技力の向上について

### 1. 現状と課題

スポーツ庁においては、オリンピック競技・パラリンピック競技それぞれの特性を踏まえた上で、同じトップアスリートと捉え、国際競技力の向上に関する施策を展開してきた。我が国の国際競技力は、以下のとおり一定の向上が見られる一方で、メダルの獲得を安定的に期待できる競技が固定的かつ少数にとどまっていること等から、強豪国とはなお開きがある。

#### 【日本の獲得メダル数】

オリンピック(夏季)	金メダル	総メダル
2012 ロンドン	7 個(11 位)	38 個(6 位)
2016 リオ	12 個(6 位)	<b>41 個</b> (7 位)

※2016リオの総メダル数・入賞数(88)は過去最高

パラリンピック(夏季)	金メダル	総メダル
2012 ロンドン	5 個(24 位)	16 個(24 位)
2016 リオ	0 個(64 位)	24 個(16 位)

オリンピック(冬季)	金メダル	総メダル
2010 バンクーバー	0 個(20 位)	5 個(15 位)
2014 ソチ	1 個(17 位)	8 個(12 位)

※2014ソチの総メダル数・入賞数(28)は国外で開催された冬季オリンピック競技大会では過去最高

パラリンピック(冬季)	金メダル	総メダル
2010 バンクーバー	3 個(8 位)	11 個(7 位)
2014 ソチ	3 個(7 位)	6 個(9 位)

#### 【3大会連続金メダル獲得競技数(夏季)】※括弧内は銀・銅含む3大会連続メダル獲得競技数

<オリンピック>

1位アメリカ:9(14)、2位中国:6(15)、3位イギリス:6(10) 9位日本:2(5)

<パラリンピック>

1位中国:8(12)、2位イギリス:6(7)、3位ブラジル:4(5) 日本:0(5)

国際競技力の向上を図るためには、我が国が得意とする競技における一層の競技力強化に加えて、オリンピック・パラリンピック競技大会をはじめとする国際競技大会等において、メダル獲得等の優れた成績をあげる競技数を増加させるよう各中央競技団体(NF)が行う競技力強化を支援することを基本的な方向性として、各種支援施策の充実を図らなければならない。特に、自国開催となる平成32年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会では、その成功を確実にするためにも、我が国のトップアスリートの更なる活躍が期待されていることを意識する必要がある。

こうした方針の実現に当たっては、各NFが、中長期的な強化戦略に基づいた選手強化を自律的かつ効果的に図り、メダルを獲得できる潜在力を有するアスリートを数多く生み出すことが課題となる。

### 2. 施策の方向性(案)

- (1) 各中央競技団体が行う中長期的な強化戦略に基づいた自律的かつ効果的な競技力強化を支援する仕組みを構築するとともに、その仕組みについて不断の改善を図る。これにより、JOC及びJPCの設定したメダル獲得目標を踏まえつつ、我が国のトップアスリートが、オリンピック・パラリンピック競技大会において最高のパフォーマンスを発揮し、過去最高の金メダル数を獲得する等優秀な成績を収めることが確実にできるよう支援する。

- (2) ハイパフォーマンスに関する情報収集や競技用具の機能を向上させる技術等を開発するための体制を整備するとともに、国立スポーツ科学センター及びナショナルトレーニングセンター等を包含する「ハイパフォーマンスセンター」における各アスリートのパフォーマンスデータ等を一元化するなど、競技力強化に関する各分野について戦略性をもって推進する体制を構築する。こうした体制も活用しつつ、トップアスリートに対するスポーツ医・科学、技術開発、情報などにより多面的で高度な支援の充実を図る。
- (3) 「ハイパフォーマンスセンター」や競技別の強化拠点をはじめとして、トップアスリートのニーズ等に対応できる拠点の活用・機能強化を進める。

### 3. 具体的施策（案）

#### 【競技力強化・支援】

- NFにおいては、中長期的な強化戦略に基づき、日常的・継続的に更新しつつ実践することを通じて、トップアスリートの強化等を総合的かつ計画的に進め、自律的かつ効果的に競技力強化を行うことが期待される。
- JOC、JPC及びJSCは、相互に連携を図りつつ、NFと十分なコミュニケーションを図った上で、NFがその強化戦略の実効性を高めることができるよう支援するとともに、強化戦略のPDCAサイクルを毎年度、各段階に応じて多面的に支援する。
- 国は、上記プロセスの過程で実施されるNFの強化戦略及びその実践に関する評価結果を、ターゲットスポーツの指定や各種事業の資金配分に関する評価に活用する仕組みを構築する。
- 国は、トップアスリートの競技力強化に関して卓越した知見やノウハウを有し、強化現場での責任者となるナショナルコーチをはじめ、強化活動を専門的な分野からサポートするスタッフの配置などの各競技団体が行う日常的・継続的な強化活動を支援する。

#### 【次世代アスリートの発掘・育成等】

- 国は、JOC、JPC、日本体育協会、障害者スポーツ協会、各NF、医療機関、特別支援学校を含む諸学校及びJSC等と連携し、地域ネットワークを活用したアスリートの発掘、種目転向の促進支援により、全国各地の将来性のあるアスリートの効果的な発掘・育成を支援するシステムを構築する
- 国は、NF及びJSC等と連携し、将来メダルの可能性のある競技や有望アスリートをターゲットとして、海外派遣支援など、集中的な育成・強化の支援を行う。
- 国、日本体育協会及び開催地の都道府県は、国内トップレベルの総合競技大会である国民体育大会にオリンピック競技種目の導入を促進することなどにより、アスリートの発掘・育成を含む国際競技力向上に一層資する大会づくりを進める。

#### 【女性トップアスリートに対する支援】

- 国は、女性トップアスリートを巡る競争がさらに激しさを増していることも踏まえ、女性特有の課題に着目した調査研究や医・科学サポート等の支援プログラム、戦略的な強化プログラムやエリートコーチの育成プログラム等を実施し、得られた知見をNFに展開するなど戦略的な支援を行う。

### 【トップレベルのコーチ等の育成】

- 国は、JOC、JPC、日本体育協会、NF、JSC及び海外のコーチ育成関係機関等と連携し、例えば国際的なコーチ講習会等で講師等を担うことができる人材等の育成に向けた体制整備及びプログラムの開発・実施を支援する。
- JOCにおいては、ナショナルコーチアカデミーのさらなる充実等に取り組むとともに、審判員、専門スタッフ等の海外研さんの機会の確保に努めることで、NFにおけるスタッフの充実に取り組むことが期待される。

### 【スポーツ医・科学・情報等を活用した支援】

- 国及びJSCは、「ハイパフォーマンスセンター」の更なる機能強化を図るため、スポーツ・インテリジェンスセンター（仮称）、スポーツ技術・開発センター（仮称）、アスリート・データセンター（仮称）を設置し、中長期的観点から我が国の国際競技力を強化していくための基盤を整備する。
- 国及びJSCは、強化合宿や競技大会におけるスポーツ医・科学・情報等を活用したトップアスリートへの支援や、大規模な国際競技大会におけるトップアスリートやコーチ等の競技直前の準備に必要な機能の提供に取り組む。
- JSCは、スポーツ医・科学・情報等を活用したトップアスリートの強化・支援の充実に向けて、NFやJOC、JPCとも協働して、国の他の機関や地域スポーツ科学センター、大学等との連携を強化する。

### 【拠点の活用・強化】

- 国は、ナショナルトレーニングセンター（NTC）の拡充棟を2020年東京大会開催の約1年前までに整備し、オリンピック競技とパラリンピック競技の共同利用化を図る。
- NTC競技別強化拠点の活用を推進する。また、NTC（中核拠点）のみでは対応が困難な冬季、海洋・水辺系、屋外系の競技等については、従来の拠点設置の考え方に留まることなく、海外における活動の在り方を含め、あらゆる可能性の中で検討を進める。

# ロンドン大会とリオ大会の日本メダル獲得競技比較(オリンピック)

メダル	2012ロンドン大会	2016リオ大会
金	7 (11位)	12 (6位)
	レスリング(4) 柔道(1) 体操(1) ボクシング(1)	レスリング(4) 柔道(3) 水泳/競泳(2) 体操(2) バドミントン(1)
銀	14	8
	柔道(3) 水泳/競泳(3) 体操(2) ウエイトリフティング(1) 卓球(1)	バドミントン(1) アーチェリー(1) サッカー(1) フェンシング(1)
銅	17	21
	水泳/競泳(8) 柔道(3) レスリング(2) 陸上(1) アーチェリー(1)	バレーボール(1) ボクシング(1)
メダル獲得競技	13競技	10競技
計	38 (6位)	41 (7位)

※赤字: 2012ロンドン大会と比較し、2016リオ大会でメダルを獲得できなかった競技。

※青字: 2012ロンドン大会と比較し、2016リオ大会で新たにメダルを獲得した競技。

# ロンドン大会とリオ大会の日本メダル獲得競技比較(パラリンピック)

メダル	2012ロンドン大会	2016リオ大会
金	5 (24位)	0 (64位)
	水泳(2) ゴールボール(1) 柔道(1) 車いすテニス(1)	
銀	5	10
	陸上競技(3) 水泳(2)	陸上競技(4) 自転車(2) 水泳(2) 柔道(1) ボッチャ(1)
銅	6	14
	水泳(4) 陸上競技(1) 自転車(1)	水泳(5) 柔道(3) 陸上競技(3) 車いすテニス(2) ウィルチェアーラグビー(1)
メダル獲得競技	6競技	7競技
計	16 (23位)	24 (16位)

※赤字: 2012ロンドン大会と比較し、2016リオ大会でメダルを獲得できなかった競技。

※青字: 2012ロンドン大会と比較し、2016リオ大会で新たにメダルを獲得した競技。

# 2016リオ大会 国別メダル獲得競技(オリンピック)

競技数	国名	金メダル獲得競技	金メダル数	メダル獲得競技(総メダル)	総メダル数
14 (18)	イギリス	自転車、ボート、陸上競技、水泳、体操、セーリング 馬術、カヌー、テニス、ホッケー、ボクシング トライアスロン、ゴルフ、テコンドー	27	自転車、水泳、陸上競技、体操、ボート、カヌー、ボクシング セーリング、馬術、テコンドー、トライアスロン、射撃、バドミントン ラグビー、ゴルフ、柔道、ホッケー、テニス	67
12 (20)	アメリカ	水泳、陸上競技、ボクシング、体操、バスケットボール レスリング、自転車、柔道、射撃、トライアスロン テニス、ボート	46	水泳、陸上競技、体操、自転車、フェンシング、バレーボール、馬術、テニス 射撃、ボクシング、レスリング、柔道、ボート、アーチェリー、ゴルフ、 テコンドー、バスケットボール、トライアスロン、セーリング、ウエイトリフティング	121
9 (19)	ドイツ	カヌー、射撃、陸上競技、ボート、馬術、バレーボール 体操、自転車、サッカー	17	カヌー、馬術、射撃、陸上競技、ボート、ホッケー、卓球、サッカー 体操、自転車、レスリング、セーリング、柔道、アーチェリー ハンドボール、バレーボール、水泳、テニス、ボクシング	42
9 (17)	中国	水泳、ウエイトリフティング、卓球、陸上競技 バドミントン、テコンドー、自転車、射撃、バレーボール	26	水泳、射撃、ウエイトリフティング、卓球、陸上競技、体操、ボクシング バドミントン、ボート、テコンドー、レスリング、フェンシング、柔道 ゴルフ、セーリング、バレーボール、自転車	70
9 (15)	ロシア	レスリング、フェンシング、体操、水泳、柔道、テニス ボクシング、近代五種、ハンドボール	19	体操、レスリング、水泳、フェンシング、ボクシング、射撃、柔道 自転車、アーチェリー、カヌー、テコンドー、テニス、セーリング 近代五種、ハンドボール	56
7 (15)	フランス	ボクシング、馬術、柔道、カヌー、ボート、フェンシング セーリング	10	陸上競技、水泳、自転車、射撃、近代五種、アーチェリー、テコンドー ハンドボール、ボート、ボクシング、セーリング、馬術、フェンシング 柔道、カヌー	42
6 (11)	オーストラリア	水泳、ボート、セーリング、射撃、近代五種、ラグビー	8	水泳、陸上競技、自転車、馬術、カヌー、アーチェリー、ボート セーリング、射撃、近代五種、ラグビー	29
5 (10)	日本	レスリング、柔道、水泳、体操、バドミントン	12	柔道、水泳、レスリング、体操、卓球、陸上競技、バドミントン テニス、ウエイトリフティング、カヌー	41
5 (9)	韓国	アーチェリー、テコンドー、フェンシング、射撃、ゴルフ	9	アーチェリー、テコンドー、柔道、フェンシング、射撃、ゴルフ、 レスリング、ウエイトリフティング、バドミントン	21
5 (9)	イタリア	射撃、水泳、柔道、自転車、フェンシング	8	水泳、射撃、フェンシング、ボート、バレーボール、自転車、柔道 レスリング	28
3 (4)	ハンガリー	水泳、カヌー、フェンシング	8	水泳、フェンシング、カヌー、陸上競技	15

※ 日本スポーツ振興センター提供データより作成。

※ 競技(下線付き)は、日本の金メダル獲得競技、総メダル獲得競技。

※ 競技数は金メダル獲得競技数、( )内の数は総メダル獲得競技数。

# 2016リオ大会 国別メダル獲得競技(パラリンピック)

競技数	国名	金メダル獲得競技	金メダル数	メダル獲得競技(総メダル)	総メダル数
11 (15)	イギリス	水泳、陸上競技、自転車、馬術、アーチェリー カヌー、ボート、卓球、ボッチャ、トライアスロン 車いすテニス	64	水泳、陸上競技、自転車、馬術、アーチェリー、 <u>車いすテニス</u> カヌー、ボート、トライアスロン、卓球、 <u>パワーリフティング</u> セーリング、 <u>ボッチャ</u> 、 <u>車いすフェンシング</u> 、 <u>車椅子バスケットボール</u>	147
11 (11)	ウクライナ	水泳、陸上競技、自転車、卓球、 <u>車いすフェンシング</u> カヌー、7人制サッカー、柔道、 <u>パワーリフティング</u> ボート、射撃	41	<u>水泳</u> 、 <u>陸上競技</u> 、 <u>柔道</u> 、 <u>車いすフェンシング</u> 、射撃、卓球、 <u>自転車</u> カヌー、7人制サッカー、 <u>パワーリフティング</u> 、ボート	117
9 (13)	中国	水泳、陸上競技、卓球、 <u>車いすフェンシング</u> 、射撃 自転車、アーチェリー、 <u>パワーリフティング</u> 、柔道	107	<u>水泳</u> 、 <u>陸上競技</u> 、卓球、 <u>車いすフェンシング</u> 、 <u>パワーリフティング</u> <u>自転車</u> 、射撃、アーチェリー、柔道、ボート、 <u>ボッチャ</u> ゴールボール、 <u>シッティングバレーボール</u>	239
8 (11)	オーストラリア	水泳、陸上競技、自転車、セーリング、 <u>車いすテニス</u> トライアスロン、カヌー、 <u>ウィルチェアーラグビー</u>	22	<u>水泳</u> 、 <u>陸上競技</u> 、 <u>自転車</u> 、セーリング、カヌー、 <u>車いすテニス</u> アーチェリー、ボート、卓球、トライアスロン、 <u>ウィルチェアーラグビー</u>	81
7 (14)	アメリカ	陸上競技、水泳、自転車、トライアスロン、 <u>車椅子</u> バスケットボール、アーチェリー、 <u>シッティング</u> バレーボール	40	<u>陸上競技</u> 、水泳、 <u>自転車</u> 、トライアスロン、ゴールボール、柔道、 <u>車椅子</u> バスケットボール、 <u>車いすテニス</u> 、アーチェリー、ボート、セーリング 射撃、 <u>シッティングバレーボール</u> 、 <u>ウィルチェアーラグビー</u>	115
7 (10)	オランダ	自転車、水泳、陸上競技、 <u>車いすテニス</u> 、馬術 卓球、トライアスロン	17	<u>水泳</u> 、 <u>自転車</u> 、 <u>陸上競技</u> 、馬術、 <u>車いすテニス</u> 、卓球、トライ アスロン、 <u>パワーリフティング</u> 、 <u>車椅子バスケットボール</u> 、 <u>ボッチャ</u>	62
6 (12)	フランス	陸上競技、卓球、柔道、セーリング <u>車いすフェンシング</u> 、 <u>車いすテニス</u>	9	<u>陸上競技</u> 、卓球、水泳、 <u>車いすフェンシング</u> 、カヌー、 <u>自転車</u> 、柔道 ボート、セーリング、トライアスロン、 <u>車いすテニス</u> <u>パワーリフティング</u>	28
4 (13)	ブラジル	陸上競技、水泳、ボッチャ、5人制サッカー	14	<u>陸上競技</u> 、水泳、柔道、卓球、 <u>ボッチャ</u> 、 <u>自転車</u> 、馬術、カヌー 5人制サッカー、7人制サッカー、ゴールボール <u>パワーリフティング</u> 、 <u>シッティングバレーボール</u>	72
4 (8)	韓国	水泳、ボッチャ、柔道、卓球	7	卓球、射撃、水泳、柔道、アーチェリー、 <u>陸上競技</u> 、 <u>ボッチャ</u> <u>自転車</u>	35
3 (10)	ドイツ	陸上競技、自転車、トライアスロン	18	<u>陸上競技</u> 、 <u>自転車</u> 、卓球、柔道、水泳、カヌー、馬術、射撃 トライアスロン、 <u>車椅子バスケットボール</u>	57
0 (7)	日本		0	<u>陸上競技</u> 、水泳、柔道、 <u>自転車</u> 、 <u>車いすテニス</u> 、 <u>ボッチャ</u> <u>ウィルチェアーラグビー</u>	24

※ 日本スポーツ振興センター提供データより作成。

※ 日本と、金メダル獲得競技数の上位10か国を比較。

※ 競技(下線付き)は、日本の金メダル獲得競技、総メダル獲得競技。

※ 競技数は金メダル獲得競技数、( )内の数は総メダル獲得競技数。

# 3大会連続メダル獲得競技(オリンピック) ～北京・ロンドン・リオ～

競技数	国名	3大会連続金メダル獲得競技	金メダル数	3大会連続メダル獲得競技(総メダル)	総メダル数
9 (14)	アメリカ	水泳、陸上競技、体操、バスケットボール 射撃、テニス、 <u>レスリング</u> 、ボート、自転車	114	水泳、 <u>陸上競技</u> 、体操、自転車、射撃、フェンシング バレーボール、 <u>レスリング</u> 、テニス、ボート、テコンドー バスケットボール、ボクシング、柔道	315
6 (15)	中国	水泳、ウエイトリフティング、卓球、バドミントン 射撃、テコンドー	79	水泳、 <u>体操</u> 、ウエイトリフティング、射撃、卓球、バドミントン <u>陸上競技</u> 、ボクシング、柔道、テコンドー、フェンシング <u>レスリング</u> 、自転車、ボート、セーリング	247
6 (10)	イギリス	自転車、ボート、陸上競技、セーリング ボクシング、カヌー	55	自転車、ボート、 <u>水泳</u> 、 <u>陸上競技</u> 、セーリング、 <u>体操</u> 、ボクシング カヌー、馬術、テコンドー	160
4 (9)	ロシア	<u>レスリング</u> 、水泳、体操、ボクシング	34	<u>レスリング</u> 、 <u>体操</u> 、 <u>水泳</u> 、ボクシング、フェンシング 射撃、自転車、カヌー、テニス	139
3 (10)	ドイツ	カヌー、馬術、自転車	20	カヌー、馬術、 <u>陸上競技</u> 、自転車、ボート、 <u>体操</u> 、 <u>水泳</u> 、柔道 卓球、ホッケー	98
3 (7)	韓国	アーチェリー、テコンドー、射撃	21	アーチェリー、テコンドー、柔道、フェンシング、射撃 バドミントン、 <u>レスリング</u>	61
2 (6)	オーストラリア	水泳、セーリング	17	<u>水泳</u> 、ボート、セーリング、自転車、 <u>陸上競技</u> 、カヌー	95
2 (6)	イタリア	フェンシング、射撃	13	フェンシング、射撃、 <u>水泳</u> 、柔道、ボート、自転車	57
2 (5)	日本	<u>レスリング</u> 、柔道	18	柔道、 <u>水泳</u> 、 <u>レスリング</u> 、 <u>体操</u> 、 <u>陸上競技</u>	83
2 (3)	ハンガリー	カヌー、水泳	14	<u>水泳</u> 、カヌー、フェンシング	33
0 (10)	フランス		0	柔道、 <u>水泳</u> 、 <u>陸上競技</u> 、自転車、カヌー、セーリング ボート、射撃、テコンドー、ハンドボール	86

※ 日本スポーツ振興センター提供データより作成。

※ 競技(下線付き)は、日本の金メダル獲得競技、総メダル獲得競技。

※ 競技数は金メダル獲得競技数、( )内の数は総メダル獲得競技数。



# 3大会連続メダル獲得競技(パラリンピック) ～北京・ロンドン・リオ～

競技数	国名	3大会連続金メダル獲得競技	金メダル数	3大会連続メダル獲得競技(総メダル)	総メダル数
8 (12)	中国	陸上競技、水泳、卓球、車いすフェンシング パワーリフティング、射撃、柔道、アーチェリー	276	陸上競技、水泳、卓球、パワーリフティング、車いすフェンシング 自転車、射撃、アーチェリー、柔道、ボート、ゴールボール シットイングバレーボール	676
6 (8)	イギリス	自転車、水泳、陸上競技、馬術、アーチェリー ボート	128	水泳、陸上競技、自転車、馬術、アーチェリー、車いすテニス ボート、ボッチャ	336
4 (5)	ブラジル	水泳、陸上競技、ボッチャ、5人制サッカー	49	陸上競技、水泳、柔道、ボッチャ、5人制サッカー	143
3 (11)	アメリカ	水泳、陸上競技、自転車	94	水泳、陸上競技、自転車、車いすテニス、柔道、アーチェリー ボート、セーリング、車椅子バスケットボール、 シットイングバレーボール、ウィルチェアーラグビー	304
3 (6)	オーストラリア	水泳、陸上競技、自転車	66	水泳、陸上競技、自転車、セーリング、ボート、ウィルチェアーラグビー	228
3 (5)	ポーランド	陸上競技、卓球、自転車	22	陸上競技、卓球、水泳、自転車、車いすフェンシング	98
3 (5)	オランダ	水泳、車いすテニス、陸上競技	21	水泳、自転車、陸上競技、車いすテニス、卓球	104
2 (8)	ドイツ	陸上競技、自転車	34	陸上競技、自転車、水泳、馬術、卓球、柔道、射撃 車椅子バスケットボール	173
2 (7)	ウクライナ	水泳、陸上競技	76	水泳、陸上競技、柔道、車いすフェンシング、ボート 7人制サッカー、パワーリフティング	257
2 (6)	韓国	ボッチャ、卓球	7	卓球、射撃、陸上競技、水泳、アーチェリー、ボッチャ	83
0 (5)	日本		0	陸上競技、水泳、自転車、柔道、車いすテニス	63

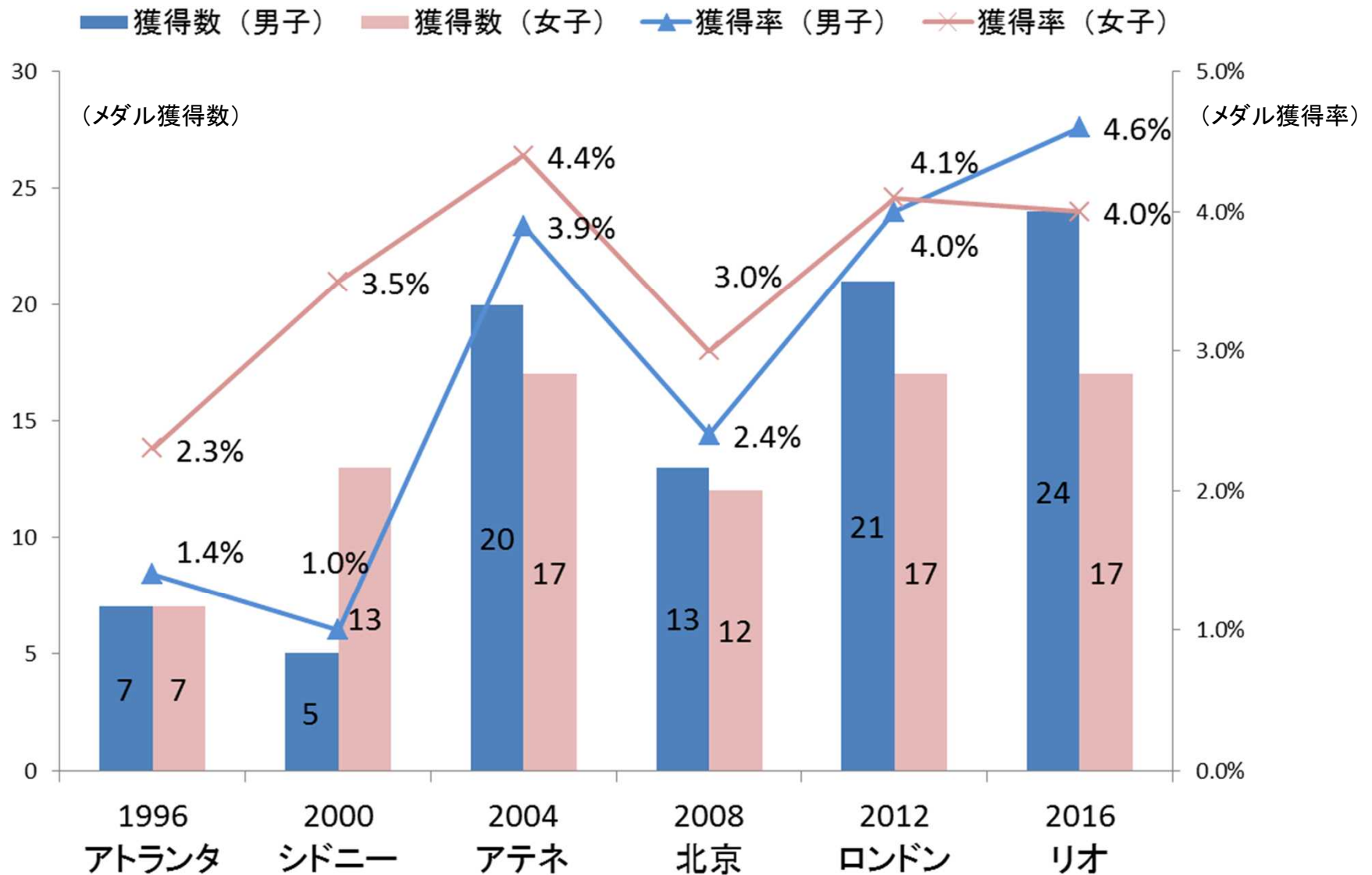
※ 日本スポーツ振興センター提供データより作成。

※ 日本と、金メダル獲得競技数の上位10か国を比較。

※ 競技(下線付き)は、日本の金メダル獲得競技、総メダル獲得競技。

※ 競技数は金メダル獲得競技数、( )内の数は総メダル獲得競技数。

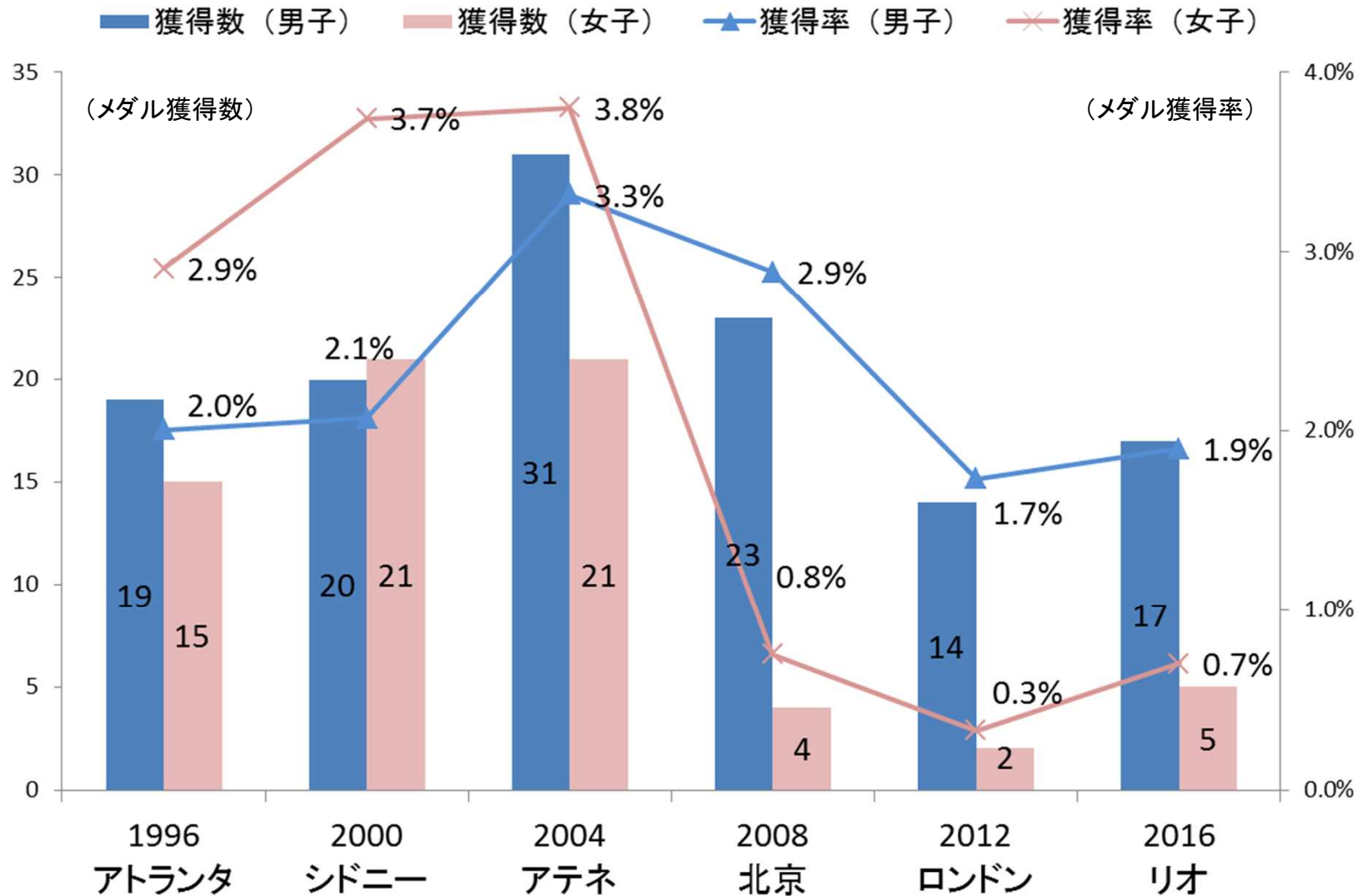
# 夏季オリンピックにおける女性アスリートのメダル獲得数・獲得率 (1996アトランタ大会～2016リオ大会)



※ 日本オリンピック委員会ホームページおよび日本スポーツ振興センター提供データより作成。

※ 男女混合種目は除く。

# 夏季パラリンピックにおける女性アスリートのメダル獲得数・獲得率 (1996アトランタ大会～2016リオ大会)



※ 日本パラリンピック委員会ホームページおよび日本スポーツ振興センター提供データより作成。  
 ※ 男女混合種目は除く。

# ナショナルトレーニングセンターの拡充整備

(前年度予算額：199,802千円)  
29年度概算要求額：3,660,231千円

## 【概要】

トップアスリートが、同一の活動拠点で集中的・継続的にトレーニング・強化活動を行うため、パラリンピック競技の使用を想定したナショナルトレーニングセンター（NTC）を整備し、オリンピック競技とパラリンピック競技の共同利用化を図る。

◆2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針（平成27年11月27日 閣議決定）

### ④メダル獲得へ向けた競技力の強化

公益財団法人日本オリンピック委員会及び公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会の設定したメダル獲得目標を踏まえつつ、日本人アスリートが、大会において最高のパフォーマンスを発揮し、過去最高の金メダル数を獲得するなど優秀な成績を取めることができるよう、トップアスリート及び次世代アスリートの育成・支援のための**戦略的な選手強化**、競技役員など国際的に活躍できる人材の育成、スポーツ医・科学、情報分野の多方面からの専門的かつ高度な支援体制の構築に努めるとともに、**オリンピック競技とパラリンピック競技の一体的な拠点構築を進める**。特に、パラリンピック競技については、基盤の強化をはじめ、大会の成功に向けた重層的な支援を講ずる。

### ◆計画予定地

東京都北区西が丘3丁目1442-21、22

- 建設工事完成時期 平成31年度当初を目標
- 工事費 約220億円（概算見込額）

### ◆整備年次計画

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
基本設計	実施設計	整備工事			トレーニング期間
					東京オリンピック・パラリンピック競技大会

### ◆拡充施設の概要

階数	建築面積	延床面積	建物高さ
地下1階、地上6階	約10,000㎡	約29,400㎡	30.5m
施設		規格等	
共用体育館		(1)42m×23m 弾性床材	
【オリンピック競技】		(2)～(4)44m×24m フローリング	
バスケットボール、バレーボール、バドミントン、テコンドー			
【パラリンピック競技】		※(3)(4)については間仕切りを収納し88m×44mの大空間として利用可能	
車椅子バスケットボール、シットイングバレーボール、バドミントン、テコンドー、ボッチャ、ゴールボール、パワーリフティング、ウィルチェアラグビー			
水泳（競泳）トレーニング施設		50m×10レーン 水深3m	
卓球トレーニング施設		コート数：24～28面	
射撃トレーニング施設		50m（25m）：5射座 10m：25射座	
フェンシングトレーニング施設		30ピスト（ファイナル対応3）	
アーチェリートレーニング施設		12標的	
宿泊施設		ツイン30、コネクティング12、シングル37、和室4	
食堂		座席数約88席（うち車椅子対応38席）	

### ◆拡充施設の完成イメージ図



# ハイパフォーマンスセンター基盤整備(新規)

29年度概算要求額：1,768,092千円

□ 「ハイパフォーマンスセンター」の機能強化を図るため、以下の3センターを新たに設置し、我が国の国際競技力が中長期的に成長していくための基盤を整備する。

